寅さん歩　その26

東京の主要道路の起点～終点

新目白通り－1

平野　武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021 年 10 月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」、「清洲橋通り」、「井ノ頭通り」、「葛西橋通り」、「中野通り」、「平和橋通り」、「大久保通り」、「蔵前橋通り」、「道灌山通り」、「川の手通り」、「自由通り」、「丸八通り」と歩いてきました。

今回は「新目白通り」を歩きます。新目白通りは文京関口の目白通りの江戸川橋交差点を起点に、新宿区西落合一丁目交差点に至る延長約 5ｋｍの道です。写真右上は新目白通りの道路名標識（都道 8 号線）です。道路名は目白通りのバイパスとして付けられました。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時に撮影したものもあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

［江戸川橋交差点］ 文京区関口一丁目

最寄駅　東京メトロ有楽町線　江戸川橋駅

目白通りの江戸川橋交差点（写真下左）で目白通りは右折して江戸川橋を渡りＪＲ目白駅方面へ進みます。新目白通りは江戸川橋交差点を起点として神田川

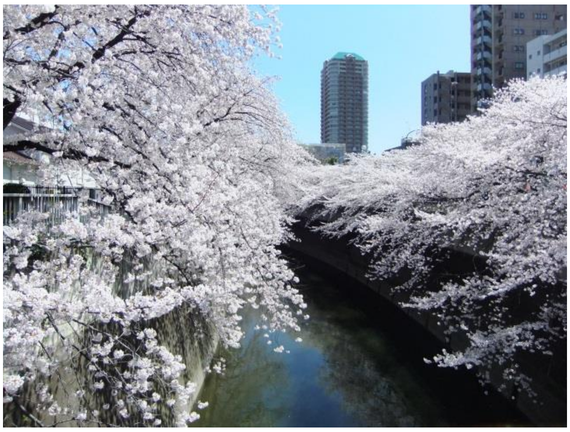
沿いに直進して、西落合交差点までの目白通りのバイパスです。写真下右は起点を表す右端が直角の道路名標識です。右上は高速道路池袋線が通っています。

［神田川・江戸川公園］ 文京区関口二丁目

最寄駅　東京メトロ有楽町線　江戸川橋駅

江戸川橋（写真下左）を渡り、神田川（写真下右）沿いの江戸川公園入口まで寄り道です。

写真上左右は江戸川公園入口です。入口を入ると右側にかつて江戸川と呼ばれた神田川の治水事業に貢献した大井玄洞（げんどう）の胸像（写真下左）がありました。治水事業は 1919 年（大正 8 年）に完成しています。
日本最古の神田上水（神田川）は徳川家康の命で大久保藤五郎により開かれました。公園内には水位をあげて上水を水戸屋敷に入れた大洗堰があります。
松尾芭蕉は若い頃、神田上水の改修工事に携わっています。大正末期の護岸改修で沿岸の桜が失われましたが、その後、江戸川公園沿いにソメイヨシノが植えられ桜の名所が復元しています。満開時には見事な神田川の桜並木（写真下右）です。



［鶴巻町交差点］ 新宿区早稲田鶴巻町

最寄駅　東京メトロ有楽町線　江戸川橋駅

江戸川橋交差点に戻り、新目白通りを進むと鶴巻町交差点（写真下右）です。左は外縁東通り（都道 319 号線）の終点です。信濃町・六本木方面へ向かい、起点は港区麻布台二丁目です。

［早稲田大学　大隈庭園］新宿区西早稲田一丁目

最寄駅　都電荒川線　早稲田駅

左側に早稲田大学大　隅会館があります。中に入ると早稲田大学創設者　大隈重信の屋敷跡で現在は大隈庭園（写真下左）がありました。大隈重信の没後、早稲田大学に寄贈された土地で隣は早稲田大学大隈講堂（写真下右）です。
寅さん歩 193　東京の学食めぐり一2 をご覧ください。

［都電荒川線　早稲田駅］新宿区西早稲田一丁目

右側は東京に唯一残った都電荒川線（愛称：東京さくらトラム）の早稲田駅（写真下左）です。ここが始発・終着駅で新宿区西早稲田・豊島区大塚・北区王子を通過して荒川区三ノ輪橋までの路線（全長約 12km、約 50 分、30 の駅）です。都電荒川線は「駅」を「停留場」と呼ぶそうですが、ここでは駅と表示します。**寅さん歩 129　東京にこんなところ一3 をご覧ください。**

［水稲荷神社］ 新宿区西早稲田三丁目

最寄駅　都電荒川線　面影橋駅

左側の奥に水稲荷神社の入口（写真下左）がありました。社殿（写真下右）は奥に上がった所にあります。創建は 941 年（天慶 4 年）です。1702 年（元禄 15 年）に霊水が湧き出て眼病に聞くと評判になり「水稲荷神社」と改名。1963 年（昭和 38 年）、早稲田大学の拡張の際に早稲田大学と土地交換を行い現在地に遷座しました。水商売および消防の神様としても有名らしいです。

［甘泉園］ 新宿区西早稲田三丁目

最寄駅　都電荒川線　面影橋駅

水稲荷神社の入口前を左折すると「甘泉園」（写真下左右）があります。園の上は水稲荷神社です。

説明板を要約すると「甘泉園の名は園内に湧水があり、清川で常時涸れず、
茶に適していたところから起こったとの書き記された石碑が水神社に現存している。この地は、江戸中期の 1774 年（安永 3 年）徳川御三家の一つの清水家の下屋敷で、明治 30 年ごろ相馬家の所有となったが、昭和 13 年早稲田大学に移管された。その後東京都が買収して昭和 44 年に新宿区へ移管した。段丘の高低差を利用して泉の水を引いた池がある回遊式庭園である。常緑樹林にかこまれ春のツツジ、秋には紅葉が水面に写り、見事な景観である」と記載。写真下左右は訪問時の園内の写真です。

［面影橋］ 新宿区西早稲田三丁目　　　最寄駅　都電荒川線　面影橋駅

新目白通りは都電荒川線が通り、早稲田駅の次は面影橋駅です。右側は神田川です。面影橋は神田川に架かる橋で（写真下左）神田川両岸は桜の名所で写真下右は桜満開時の写真です。

説明板があり「面影橋は目白台から続く鎌倉街道と推定される古い街道沿いに

あり、俤（おもかげ）の橋・姿見橋ともいわれました。橋名の由来は諸説あり、高名な歌人である在原業平が鏡のような水面に姿を映したためという説、鷹狩りの鷹をこのあたりで見つけた将軍家光が名付けたという説、近くにいた和田靭負（ゆきえ）の娘であった於戸姫（おとひめ）が身に起こった数々の悲劇を嘆き、水面に身を投げた時に詠った和歌から名づけられたという説などが知られています。なお、姿見の橋は面影橋の北側にある別の橋との説もあります」と記載。

［高戸橋交差点］ 新宿区西早稲田三丁目

最寄駅　都電荒川線　面影橋駅

高戸橋交差点（写真下右）で明治通り（都道 305 号線）と交差します。
左へ行くと新宿方面、右へ行くと池袋方面です。新目白通りは直進します。

都電荒川線は右折して、神田川を渡り（写真下右）学習院下駅、大塚駅前駅方面へ向かいます。

今回はここまでとします。

［バーチャルウォーク途中経過］

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがＦＷＡホームページ「ＹＲ・四季の道」に掲載されています。　寅次郎、バーチャルウォーク「東海道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク「弥次さん　喜多さんと伊勢参り」で 2021 年（令和 3 年）9 月から歩きました。寅さん歩 379　令和 3 年 10 月から掲載済です。
今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中でお会いするのを楽しみにしています。

2023 年 8 月 8 日、お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023 年 10 月 30 日　日坂宿（現在の静岡県掛川市）（江戸日本橋から 214ｋｍ）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会)」を参考にしています。

写真左は「日坂　佐夜ノ中山」です。Ｕ字型の急坂の底にあるのは「夜泣き石」と呼ばれる日坂の名物です。旅人たちがしげしげと眺めています。現在、「夜泣き石」は国道 1 号線小夜の中山トンネルの東京側の道路の脇に安置されています。

「夜泣き石」とは中山峠で妊婦が山賊に斬殺され、その傷口から男児が生まれ、母親の魂が近くの石の上に乗り移り、夜毎泣き続け、近くのお寺の和尚に発見され、育てられたと伝わる石です。
日坂宿の名物は「子育て飴」（写真下左)、「わらびもち」（写真下右）です。
子育て飴は和尚が男児に与えたと伝わるもち米と大麦を原料とした水あめです。

わらびもちはわらび粉、水、砂糖で作られた和菓子で、わらびの地下茎から採

れるわらび粉のでんぷんを使ったのでわらびもちと呼ばれました。掛川城主の山内一豊はお茶とわらびもちで徳川家康をもてなしたと伝わります。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。
ＦＷＡのＨＰ「ＹＲ・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。
今回の東海道五十三次のコースシートは１マス２ｋｍを塗りつぶして進みます。
マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。
また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷してご利用ください。

平野　寅次郎　拝